

ROUSAN 「あつさん」 「エイズ」

日本勤労者山岳連盟
Japan Workers' Alpine Federation
〒162-0814
東京都新宿区新小川町5番24号
TEL 03(3260)6331(代)
FAX 03(3235)4324(代)
URL http://www.jwaf.jp

お問い合わせ・情報は
フリーダイヤル
0120-44-2742
(平日10時~18時)
E-mail: jwaf@jwaf.jp

秋の取り組み 各種集會を開催



霞沢岳から見た奥穂高岳 美しい上高地はどのようにして生まれたのだろうか

全国連盟自然保護委員 場所です。この上高地は
会主催の第14回自然保護 どのようになされたのでし
講座が9月17日、上高地 ようか。
の西系屋山荘で行われま 河合氏の調査によれ
した。講師は河合小百合 ば、上高地を流れる梓川
・信州大学山岳総合研究 は、焼岳火山群噴火以前
所特別研究員。参加は北 には松本方面ではなく、
海道から兵庫まで24人 岐阜県側に流れて富山湾
した。
上高地は、標高1500 にそそいでいたこと
0mを超える山岳地にあ です。最近のボーリング
りながら、平坦な土地が 調査で、この事実が確認
奥深く広がる自然豊かな されました。
上高地のもととなった

梓川は富山湾に流れていた？ 上高地誕生の秘密を探る

第14回自然保護講座



UAAAの参加者たち

は日本、ネパール、パキスタン、中国、モンゴル、イラン、韓国、台湾など。労山は、震災救済活動やクリーンハイキングなど自然保護活動その他を報告しました。来年はイランのテヘラン市で開かれます。

アジア山岳連盟 カトマンズで 総会を開く

日本から加盟するアジア山岳連盟(UAAA)総会が、10月9日にネパールのカトマンズで開催され、労山を代表して斉藤理事長と花村理事が出席しました。前日(8日)には同じ会場で国際山岳連盟(UIAA)総会も開かれ、加盟団体ではありませんが労山もオブザーバー参加しました。

安心して 山登り できるように



登山道での線量調査

労山福島県連は今までに調査を開始することに前日線量計を購入し、県内の山での放射線量調査を続けてきましたが、このたびは全国連盟から線量計が貸与され、本格的に調査を開始することにしました。
3月11日の東日本大震災で福島第一原子力発電所の事故が発生。その後

福島県内の山で 線量調査を開始

労山福島県連 事務局長 和泉功

の放射能拡散により県内を中心に汚染地域が拡大しました。各市町村の放射線量については調査が進み定期的なデータが発表されていますが、山間部については、7月になつてようやく福島県が民有林を、林野庁が国有林を調査しデータを公表しました。しかし、残念ながら登山道における計測はされていません。
このため労山福島県連は前日線量計を購入し、登山者が安心して山登りができるように、福島県内の登山道を中心とした測定を実施。ホームページなどで情報提供を行っていましたが、このため労山福島県連の調査を行い、福島県内の全域(計画1200箇所)の調査を行い、福島県内の山岳放射線量の実態を報告発信することによって登山者の皆さんが安心して山登りを楽しめるよう取り組んでいます。

ホームページ分科会が好評 第18回全国ハイキング交流集會

開かれているもので、今回は主管団体の静岡県連が参加者の組織や集會の盛り上げに奮闘。会場のおおとり荘は、狩野川に面したきれいな宿で、新企画の「ホームページ分科会」もたいへん好評でした。



ハイキング集會で基調提起する石川委員長

第18回全国ハイキング交流集會が9月17日、18日に静岡県の伊豆・長岡で開かれ、14都府県から112人が参加しました。
この集會は2年に一度

のは1万2千年前の噴火で、現在の黒部湖の15倍もの大きさのせき止め湖(古上高地湖)ができ、そこに土砂が流れ込んできたものです。この湖は5千年間存続しましたが、その後、地震で崩壊しました。しかし、4千年前にふたたび焼岳が噴火し、現在の上高地が生まれました。

第9回全国救助隊交流集會が10月1日、2日、愛媛県大洲市で開かれました。会場の青少年交流の家は愛媛県西端に位置し、山に囲まれた環境がよい所です。参加は13都府県から69人でした。
記念講演は松本市の相澤病院救命救急センターに勤務する小山氏。都合

もっと聞きたかったへり 救助の実情 全国救助隊交流集會



東京都連盟の梱包法実演

で予定より短時間の講演でしたが、山岳事故におけるへり救助の実情に、「もっと聞きたかった」の感想が多くみられました。
翌日は人工壁で救助技術の交流を行なわれ、披露されたいろいろな技術は、参加者の興味を引き付けていました。

中間報告と今後の取り組み

2011.10.14 日本勤労者山岳連盟 震災対策本部

被災したすべての会員が 笑顔で山に行けるように

これまでの 労山の支援活動

(1) 大震災発生と「全国連盟東日本大震災対策本部」の立ち上げと初期の活動

3・11東日本大震災発生後、全国の山岳連盟と岩手、宮城、福島各県連盟の連絡確保と会員の安否確認が開始された。全国連盟も3月14日に震災対策本部を立ち上げた。そして、全国の仲間に向けて義援金と防寒衣類などの支援物資提供を訴えた。

(2) 素早かった地方連盟の被災者支援の動き

全国連盟事務局には、各地方連盟からは、岩手、宮城、福島各県連盟の支援物資が寄せられてきた。また、被災地三県でも、安否確認や被災者への支援活動が開始された。

(3) 全国連盟と被災地地方連盟との連携で被災者救援の本格的活動が始まる

全国連盟はまず自ら被災状況を把握するため、3月26日に仙台市へ出発し、赤松、岩手、宮城、福島の被災地を視察し、被災地への大量の支援物資が寄せられてきた。また、被災地への大量の支援物資が寄せられてきた。また、被災地への大量の支援物資が寄せられてきた。

(4) 家族被害、住宅被害の大きな被災者への見舞い金を送る

5月には岩手、宮城両県の被災者への見舞い金を送った。

1つ提供(福岡)、気仙沼近くの唐桑半島でのガレキ処理や崩壊した家からの行方不明者捜索などの活動(栃木)、三陸海岸での行方不明者捜索で自衛隊との共同作業を行ってきた関東救助隊員等の活動等、全国連盟の提起に先んじた、自発的な支援活動が始まった。また、被災地三県でも、安否確認や被災者への支援活動を早期に開始した。

その後、被災者の少ない福島を除き、岩手と宮城には全国各地から、地方連盟や山岳連盟の支援ボランティアが入った。また、被災地三県でも、安否確認や被災者への支援活動を早期に開始した。

9月に入ると、岩手県や宮城県の家屋を失った被災者の多くが仮設住宅や「借り上げ住宅」等に移り、避難所は徐々に役割を終えて閉鎖するところが増えてきた。また、さまざまな組織や民主団体、労組などの現地支援センターも撤退・閉鎖するところが増えて、大震災発生から半年を経て、被災地への支援のありかたも変化を求められつつあった。

岩山の組織的な支援は、宮城県の石巻のJAの農地やビニールハウスでのヘッド撤去作業と、栃木を中心とする関東の山岳連盟の唐桑半島のガレキ撤去などの作業が継続されているが、石巻のJA支援は2012年3月までをメドとし、唐桑半島の支援も2011年内に終了することになった。一方で、新たな支援の遅れた地域へのボランティア派遣も検討されている。

全国的な支援活動も必要となるかもしれない。

しかし、東北の今回の大震災でそして原発事故で受けたダメージは、容易に回復できるものではない。被災者の生活再建や地域の復興は、時間のかかる作業となるだろう。私たちは、被災した会員や一般被災者の置かれた立場や要求に寄り添って支援ニーズを探りつつ、長く支援を継続していくことに大きな努力を払いたい。

(4) 今後の被災地へのボランティア派遣は、それぞれの連盟・クラブ、あるいは個人やグループの「自立・自立」型の支援となる。

(5) 労山会員のボランティア志向は強く、それらに呼応して支援ニーズを把握し、手際よく対応する必要がある。例えば「山岳連盟」は、被災地への支援を続ける必要がある。

被災地は再び厳しい冬の時期を迎える。仮設住宅での生活は、大きな不便を強いられることになるだろう。「早く、山登りを再開したい」と、9月にお会いした被災者のみなさんの声は、山に向き合う姿勢でも同一ではなかった。早く被災されたすべての会員が、笑顔で山に行ける日が来るよう、支援を続けよう。

被災地は再び厳しい冬の時期を迎える。仮設住宅での生活は、大きな不便を強いられることになるだろう。「早く、山登りを再開したい」と、9月にお会いした被災者のみなさんの声は、山に向き合う姿勢でも同一ではなかった。早く被災されたすべての会員が、笑顔で山に行ける日が来るよう、支援を続けよう。

被災地は再び厳しい冬の時期を迎える。仮設住宅での生活は、大きな不便を強いられることになるだろう。「早く、山登りを再開したい」と、9月にお会いした被災者のみなさんの声は、山に向き合う姿勢でも同一ではなかった。早く被災されたすべての会員が、笑顔で山に行ける日が来るよう、支援を続けよう。

被災地は再び厳しい冬の時期を迎える。仮設住宅での生活は、大きな不便を強いられることになるだろう。「早く、山登りを再開したい」と、9月にお会いした被災者のみなさんの声は、山に向き合う姿勢でも同一ではなかった。早く被災されたすべての会員が、笑顔で山に行ける日が来るよう、支援を続けよう。

被災地は再び厳しい冬の時期を迎える。仮設住宅での生活は、大きな不便を強いられることになるだろう。「早く、山登りを再開したい」と、9月にお会いした被災者のみなさんの声は、山に向き合う姿勢でも同一ではなかった。早く被災されたすべての会員が、笑顔で山に行ける日が来るよう、支援を続けよう。

東日本大震災での救援活動 (4月～10月)

以下の表は、各県連からの報告等に基づき、編集部が作成

★宮城県石巻地区

月	メンバー数	内県連主催	山岳会数	参加者数	延べ参加者数(作業日数)			宿泊(センター)		
					同県外	同県内	合計	作業日数	日数	人数
4月	4	3	8	27	46	103	149	10	1	15
5月	10	5	20	66	151	97	248	14	9	101
6月	15	8	44	163	345	8	353	17	16	212
7月	16	5	33	155	338	13	351	21	22	311
8月	9	5	25	102	164	5	169	12	12	166
9月	11	3	34	182	421	9	430	11	9	297
10月	9	4	31	127	288	2	290	15	11	145
合計	74	33	195	822	1,753	237	1,990	100	80	1,247

※県外の内訳＝群馬63、栃木28、茨城2、埼玉17、東京152、千葉221、石川29、愛知24、滋賀15、京都76、大阪7、兵庫95、全国連盟女性委員会80
 ※宮城県連は延べ332名

主な支援場所・支援作業等

- 震災直後の支援活動は、宮城労山中心とした会員・会友等の自宅周辺の瓦礫・ヘドロ等の撤去除去が中心。
- 一定の目処が付いた段階で、全国連盟より地域復興全般にわたって支援したいと、石巻地域での受入れを要請。地域の水沼東部構造改善センターでの宿泊を許可してもらい、市街地の農地特に大型ハウスのガレキ撤去やヘドロ除去を中心に作業を行った。

★宮城県気仙沼市 唐桑半島

月	延べ参加者数
4月	125
5月	40
6月	6
10月	16

唐桑半島にベースを設置し、周辺一般住民の家財道具撤去、ヘドロ撤去、海岸清掃などをおこなう。

※内訳＝栃木65、千葉122

★その他の地区の活動

- 岩手県連＝122名 青森＝岩手県大撈町 6名
 群馬＝岩手県岩泉町 5名 石川＝宮城県南三陸町 4名

多様化するニーズに対応した支援の継続

(1) 被災会員、中でも家や仕事を失い、今後の生活再建の見通しが立たない会員への支援を重点に続けた。したがって当面、義援金の募集は2012年3月まで継続する。

(2) 被災地の復興は極めて遅れているものの、10月に入り被災者のほとんどが避難所から仮設住宅等に引っ越した。未だガレキ撤去の遅れているところや、支援から取り残されているような島などもある。本格的な復興は国の予算措置などの復興計画が遅れており、災害で疲弊した自治体の自力復興は困難で、被災した多くの人は将来に大きな生活不安を抱えている。被災地の山岳連盟と9月初めに行った懇談でも、少なからずいから同様の話が出された。支援ニーズはガレキ撤去等の「従来型支援」だけでなく、多様化していくものと思われる。心のケアなどの多様な活動も必要となるかもしれない。

(3) 先に述べたように、石巻のJAの農園のヘドロ撤去等の支援作業、関東の仲間連の唐桑半島の長期の支援活動は、これまで大量のボランティアのボランティアを送り出し、全国連盟も撤去作業に必要な器材その他での支援を行ってきたが、現在はこれらの大規模な支援は、一定の期限を以て終了する。

(4) 今後の被災地へのボランティア派遣は、それぞれの連盟・クラブ、あるいは個人やグループの「自立・自立」型の支援となる。

(5) 労山会員のボランティア志向は強く、それらに呼応して支援ニーズを把握し、手際よく対応する必要がある。例えば「山岳連盟」は、被災地への支援を続ける必要がある。

山岳での放射能調査活動について

福島第一原発事故による、福島や周辺山岳、関東の一定山域登山道の放射能の調査活動を開始した。全国連盟は10台の国産線量計を購入し、このうち4台を福島県連に、また調査の必要な地方連盟にも貸与した。今秋から登山道での調査活動を開始。既に福島県連・栃木県連は県下の山々の放射能調査活動を開始している。

福島第一原発事故による、福島や周辺山岳、関東の一定山域登山道の放射能の調査活動を開始した。全国連盟は10台の国産線量計を購入し、このうち4台を福島県連に、また調査の必要な地方連盟にも貸与した。今秋から登山道での調査活動を開始。既に福島県連・栃木県連は県下の山々の放射能調査活動を開始している。

最後に

労山は大震災発生に際し、素早い支援活動を開始した。労山全国連盟も、過去の大震災では義援金の募集が中心で、被災地へのボランティア派遣の支援は初めての経験であり、「大震災対策本部」の設置以降は、手探りの支援活動の開始でもあった。

被災地は再び厳しい冬の時期を迎える。仮設住宅での生活は、大きな不便を強いられることになるだろう。「早く、山登りを再開したい」と、9月にお会いした被災者のみなさんの声は、山に向き合う姿勢でも同一ではなかった。早く被災されたすべての会員が、笑顔で山に行ける日が来るよう、支援を続けよう。

労山が山岳で 線量調査を開始



労山が購入したホルバの線量計

福島第一原発の事故による汚染が心配されていますが、各地の山は安全に登ることができるとはどうか。しかし、山岳地帯の放射線量は詳しく調べられていません。労山は、不安の声にこたえられるよう、山岳における線量調査を開始しました。

線量計購入にあたってはその道の専門家を訪ねて助言を受け、分析・計測機メーカー・堀場製作所の環境放射線モニタ「HORI BA PAI 1000 Radi」(定価12万5千円)をまず5台購入し、その後さらに5台を追加しました。このうち4台は福島県連に貸与し、残り1台は希望する地方連盟に貸し出します。また、測定に当たっては全国同一条件での測定となるよう、マニュアルを決めました。これにぜひ活用してください。お問い合わせは全国連盟事務局まで。

●震災救援募金
10月末現在
合計189.7万円

●支援Tシャツ
10月末現在
2000枚以上を販売

Tシャツは、当初SSサイズがありませんでしたが、要望にこたえて岩手山・鳥海山図柄の紺色のみSSサイズを作成しました。
ご注文ください。

第2回 全国評議会 開かれる

個人会員制度導入に向けた全国連盟事務所1階で開催された第2回全国評議会。35地方連盟40人の評議員(定数54)と、会長・副会長、理事、専門委員、傍聴など、全体で約80人が出席しました。



多数の参加者で会場はぎっしり

「個人会員制度」第2次案 をめぐり白熱の審議

個人会員制度導入に向けた全国連盟事務所1階で開催された第2回全国評議会。35地方連盟40人の評議員(定数54)と、会長・副会長、理事、専門委員、傍聴など、全体で約80人が出席しました。

冒頭、東日本大震災犠牲者への黙とうをささげ、続いて個人会員制度導入のための全国連盟第2次案について質疑・討論が行われました。最後に、岩手、宮城、福島、被災三県評議員から支援への感謝と今後に向けた決意が表明され、日程を終えました。

賛成意見では「県連としては5~6年前から、既に検討してきた(福岡)「出発の時が来た。船は出るよ、という認識(滋賀)「北アにも山ボーイ・ガールが押し寄せるが教育されてい

個人会員制度は、広範な未組織登山者に登山知識・技術を学ぶ機会をつくり、山での事故を減らし、登山文化の発展に寄与するとい

個人会員の愛称 「つづみハートナイズ」(仮称)と称する。

個人会員の権利と義務 個人会員制度の導入時には、個人会員の権利と義務は、現行規約に準じた権利と義務をもつ規約を改

山行管理 個人会員の事故・遭難などに対し自己責任を明確にした安全登山のための山行管理とシステムを導入す

山行管理の方法 ○初期 以下のA、Bの2制度で同時スタートさせる。

遭難事故対策 補償制度 救助捜索費補償限度額 死亡見舞金 200万円

「個人会員制度」導入と組織強化の具体的提案・第2次案

はじめに

わたしたちは、登山創立の原点である「国民的な登山の普及」の目的に立ち返り、さまざまな事情により山岳会に加入していない未組織登山者を、より緩やかな組織形態で仲間として受け入れ、登山知識や技術を学べる機会を提供していきたいと思う。

わたしたちが「個人会員制度」を導入することは、事故を減らし登山文化の継承にも役立つことになると同時に、組織の拡大・活性化を図られている会・クラブがある一方で、高齢化し会員数を減らし続けている地方の現状を打開し、組織の再活性化にもつな

対象と当面の組織目標 ①未組織の広範な登山愛好者を大会の対象とする。

移行工程 ①個人会員に登山と個人会員制度を理解してもら

個人会員制の事務処理体制 今後の個人会員制導入後の事務処理量の増加に応じ

個人会員制度の基本方針

個人会員制度は、広範な未組織登山者に登山知識・技術を学ぶ機会をつくり、山での事故を減らし、登山文化の発展に寄与するとい

個人会員の権利と義務 個人会員制度の導入時には、個人会員の権利と義務は、現行規約に準じた権利と義務をもつ規約を改

山行管理 個人会員の事故・遭難などに対し自己責任を明確にした安全登山のための山行管理とシステムを導入す

山行管理の方法 ○初期 以下のA、Bの2制度で同時スタートさせる。

遭難事故対策 補償制度 救助捜索費補償限度額 死亡見舞金 200万円

労山新特別基金 交付の手順

労山が運営する「新特別基金」は、会員の皆さんが拠出した寄付金をもとに山岳遭難・事故に対して交付する助け合い基金です。以前は「遭難対策基金(遭難基金)」として運営されていましたが、保険業法改正に対応して、寄付金による現方式に変更されました。

この基金の交付に関して、誤解や不正確な理解があり、基金事務局との行き違いや、条件を満たさないためにせっかくの交付が受けられないケースがみられます。ここに、あらためて、その手順を掲載します。なお、詳しくは日本勤労者山岳連盟ホームページをご覧ください。

事前に山行計画書を各会に提出

無届山行には
交付されません

山行計画書の様式は特に指定はありません。ただし、会への提出日と受理日記載が必要です。

海外登山・トレッキングの場合は、事前に全国連盟海外委員会にも提出が必要です。全国で受理されていない場合は交付対象外となります。

事故発生

30日以内(1ヵ月ではない)に 「事故一報」と「山行計画書」を 全国連盟事務局に提出

事故一報が提出されていないものには交付されません

事故一報の様式は、労山で定めた統一様式(全国連盟ホームページに掲載)をお願いします。FAXまたはメールで送ってください。

FAX 03-3235-4324
メール jwaf@jwaf.jp

事故が軽微で、基金交付は必要ないと思っても、あとで症状が出る場合があります。必ず事故一報は提出しましょう。全国連盟に送ると同時に、地方連盟にも送付してください。

会代表者が交付申請書等を地方連盟に提出

提出書類の用紙は、事故一報を受けて基金事務局から郵送されます。交付申請書には所属会代表者の署名捺印が必要です。交付金も、会が指定した口座に振り込まれます。

※救助・捜索費は実費、入通院は、実際に入通院した日数に応じて交付金額が算定されます。

- (提出書類)
1. 交付申請書
 2. 入通院証明書
 3. 事故確認書
 4. 救助・捜索費用の明細書(室内壁の場合)
- 領収書(コピー不可)は、自分で付箋を貼って返却用として封入してください。領収書は、氏名を同封し、住所を貼って送ってください。

地方連盟代表者が確認印を押し書類を 事故日から1年以内に全国連盟に提出

申請には地方連盟代表者の確認印が必要です。期限日をオーバーしないよう、余裕をもって処理してください。余裕のない時は、全国連盟事務局と連絡をとって、期日に遅れないようご注意ください。

申請期限は事故日より1年以内です。期限を越えると交付申請できません。

申請書類は必ず郵送をお願いします。(FAX、メールは不可)

基金運営委員会の審議を経て交付決定

交付金認定書を会代表者に送付



マナスル(8163m)の絶頂に立つ河野さん(2010年7月)

労山に学んだ技術で ヒマラヤ8千mを次々と

練馬山の会
河野千鶴子
さん



東京・練馬山の会の会長・河野千鶴子さんは、今年7月、カラコルムのガツジャーブルムI峰(8068m)に登頂に成功し、8千m級の登山記録を5つに伸ばしました。また、河野さんは7大陸最高峰も全部登頂しています。そんな大記録をもつ河野さんは、労山東京都連盟・女性ネットワーク(女)の資格ももっています。

○仕事は何を?
普通委員会の活動に熱心な河野さんの素顔を、インタビューしました。

河野さんの足取り

2002年	モンブラン	4810m
2004年	チョオユー	8201m
2005年	チョモランマ	8848m
2006年	ビソソマツ	4892m
	マッキンリー	6194m
	ゴジウスコ	2228m
2008年	サマソヤロ	5895m
2009年	シハバマ(途中で断念)	
2010年	シハバマ	8027m
	マナスル	8163m
2011年	ガツジャーブルムI	8068m



夜明けのマナスル

○なぜ毎年ヒマラヤに?
(河野)99年に都連盟隊で初めてヒマラヤの5千m峰に登り、フルポピーを見て、これを毎年見たいと(河野)03年に日本人7人山を経験した日本人に会って直接話を聞きます。

○現地での行動はどのような?
(河野)いつも単独の登山なので、ネパールのエージェントに日本語のできるガイドがいるのですが、その人を毎回使っています。他人にはカタコト英語と身振り手振りのコミュニケーションです。

○8千m峰を5つも登っての感想をどうぞ
(河野)プロの登山家ではない、ドシロウトと言っているような自分にも、登ることができたことがとてもうれしいです。

○次の計画は?
(河野)来年、タウラギリI峰(8167m)に行く予定です。

(河野)若いころハイキングはやっていましたが、本格的に登山を始めたのは50歳で練馬山の会に入会してからです。雪も岩も、技術はみんな練馬山の会で教えてもらいました。

○計画と準備はどのように?
(河野)ヒンコンマシフ(南極)とマッキンリーはツアーでしたが、あとはいつも自分単独です。まず、インターネットで日本人の登山情報を収集し、自分にいちばんマッチした報告書を手に入れます。それから、その山を経験した日本人に会って直接話を聞きます。

○お金がいっぱいかかるのでは?
(河野)自分の貯金と退職金を取り崩しているの、あと一回で使い果たす...。○家族はどう言っていますか?
(河野)夫と子ども3人(男2、女1)がいます。夫は「しょうがないか」とあきらめ顔、子どもは「死なないでね」の一言です。

「登山時報」 編集スタッフ募集

登山時報の編集に貴方も参加しませんか?
労山の機関誌に、一人でも多くの会員の意見を反映したいと思っています。

- ①メールが使える方
 - ②毎月一回の編集会議(全国連盟事務局)に出席できる方
 - ③経験は問いません。親切丁寧に指導しますので、少しでも興味のある方は事務局までご連絡ください
- jwaf@jwaf.jp



山筋ゴゴゴ体操が 本になりました

全国連盟女性委員会が取り組んでいた「山筋ゴゴゴ体操」が、きれいな冊子として出版されました。これは、登山に必要な筋力を日常的なトレーニングで作ることをめざし、男女を問わず役に立ちます。この冊子では一日15分で実行できる6つの筋トレを紹介。A5版のハンデタイプ。47ページ。1冊2000円。20冊以上は送料無料で。お申し込みは全国連盟事務局まで。